

学

園

報

No.26

富山国際大学 URL <http://www.tuins.ac.jp/>
富山短期大学 URL <http://www.toyama-c.ac.jp/>富山国際大学付属高等学校 URL <http://www.tuins-h.ed.jp/>
富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <http://www.fsinet.or.jp/~midorino/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444
TEL/076-436-5139
FAX/076-436-5444

知性・教養・個性

(1) 富山国際学園の「建学の精神」。21世紀、日本社会の教育環境が大きく変化する中、私立学校はあらためて「建学の精神」が問われています。本学園が富山女子短期大学として出発した経緯をふまえ、中島恭一・学事顧問に検討していただきました(顧問の御尽力に感謝します)。そして最初の「校歌」に謳われた「高い知性、広い教養、そして健全にして豊かな個性」が、人格形成の基本理念として充分であろうとの再確認に至りました(本誌5頁)。従って今後の各学校での教育実施にさし、このすぐれた「伝統の精神」をあらためて「共通の理念」として、教職員、学生、生徒諸君に強力に周知、発展させて下さるようお願いします。

(2) 富山国際大学は、新装なった「現代社会学部」に昨年度開設した全国的にもユニークコンセプトの「子ども育成学部」を加えた、この「幅広く、全国に並ぶものなき車の両輪」を、21世紀にのぞむわれらが大学組織の基礎構造とします。学園・大学の全力をあげ、国と地域の人材育成に向けて前進しましょう。(a) 大学教職員皆さんのご努力が結実しつつあります。第一に文科省の「大学改革・支援事業」として、本学キャリア支援センターの取組み「学生・大学・地域社会の協働による地域貢献型社会人基礎力の形成」が採択されました。平成21年度から3年計画で実施され、すでに外部委員の評価を受け始めています(無事事業が完結すれば、補助金は総計2,696万円の予定)。(b) 第二に「自主的に経営改善に取り組む大学等への支援事業」に、「経営改善計画」(平成21~25年度)が採択。大学の赤字状況を、人件費の削減、入学定員の確保、外部資金の獲得等をもって5年間で建て直し、"財政を黒字に転換する"ことが目標(実現はもとより容易ではないが、計画としては毎年、1,400万円交付の予定)。(c) ここ数年の大学の活動状況は、從来、一部教員の方々の努力にもかかわらず10余年続いた保守・消極・沈滞状況を、ようやく克服しようとする自覺的教育エネルギーの台頭と、期待します。(d) 2学部が二つのキャンパスに別れたのは御苦労ですが、地政学的に判断したこと。ぜひ「新しいダイナミックなマネジメント慣行」を創出して下さい。この四月、初期段階の子ども育成学部では今一步でしたが、全体としては定員を確保できたのは、うれしいことでした。

(3) 富山短期大学は、2013年には創立50周年を迎えます。理事長は、さらに「Next50」を構想せねばならない。自己点検・評価委員会は若手の教職員を中心に意欲的に活動し、報告書も提出。今や大学・新学部も加わって高校と3校共存の混雑した吳羽キャンパスの環境整備も、目前の課題。吳羽キャ

ンパス整備検討委員会も発足。(a) 食物栄養学科へは若手教員メンバーが参加。専攻科食物栄養専攻はこの3月、全員が立派に学士(栄養学)の単位を取得して卒業しました。(b) 幼児教育学科は、来年9月「全国保育士養成セミナー」の主管校。学科一丸となって準備を始めました。今年度から全国保育士養成協議会中部ブロックの会長校でもあり、本学の養成教育はまさに全国レベル。(c) 経営情報学科はインターンシップ等、キャリア設計教育プログラムが実を結び、就職難の中、好調な就職実績。今年も多くの新入生を迎える、学園の財政を支えているのは有難い。(d) 福祉学科は全国的な志願者減少の逆風の中、委託訓練生、介護雇用プログラムの入学生を受け入れ、介護人材養成の社会的使命を実践しています。

(4) 富山国際大学付属高校は、「学校自己評価報告書」で短・中・長期目標を自主的に提出したのは頗る嬉しい。(a) 特記すべきは、懸案の校舎改築第1期工事が5月着工。PTAのお叱りを受けていた理事長も「少し安心」。(b) セルハイ6年の成果を、ぜひポストセルハイとして骨太の本校独特的の教育レベルに定着してほしい。(c) 放送部は「青い目の人形」でニューヨークへ、新聞部は全国高文祭で「新聞と教育賞」受賞(全国1校)等の活躍。(d) 中田校長が率先ニュージーランドパクランへ出張、姉妹校契約を締結しました。

(5) みどり野幼稚園は、全国的に少子化、入園児減少の中、婦中や五福方面からの園児送迎に努力。4月からは子育て支援の一環として、懸案の「預り保育」を実施。「父親の会」の活動で、父親の子育てへの参加にも貢献。未就園児の親子クラブの充実にもつとめています。

(6) 社会福祉法人富山国際学園福祉会「にながわ保育園」は、地域に根ざす活動を強化、保育の質のさらなる向上をめざして、短大の応援も受け、自園・内外の研修の充実に努めています。

(7) 理事長は、学園代表として社会へ貢献すべく微力を傾けてきました。地元では私学の代表として、全国では「日本私立短期大学協会」と「全国大学実務教育協会」双方の監事。他方、学者個人の活動延長として多年つとめてきた全国レベルの助成財団の役員は、公益法人の制度改革に合せ(老害にならぬよう)退き始めています。富山国際学園教職員の皆さん。“教育とは希望を語ること(アラゴン)”。力を合わせ、共に明日の希望を語ろうではありませんか。

CONTENTS

□知性・教養・個性

富山国際学園理事長 金岡 祐一 1

□特集

経営情報学科開設10周年を迎えて 2~3
「世界は今」報告会を実施 4

子ども育成学部開設記念フォーラムを開催 4

□「建学の精神」を高く掲げて富山国際学園の飛躍を

富山国際学園学事顧問 中島 恭一 5

□平成22年度入試状況 平成21年度進路状況 5

□平成22年度予算概要 6~7

□学園退職者・新任者一覧 7

□学園NEWS 8

経営情報学科開設10周年を迎えて

富山短期大学経営情報学科は、情報化社会が進展する中、「企業運営の仕組み」と「社会情勢」を理解すると共に、「IT (Information Technology) スキルと情報処理技術」を身に付け、マネジメント感性を備えたビジネス・パーソンの育成を教育目標に掲げ、平成11年4月にそれまでの商経学科を名称変更して開設され、平成21年度で10周年の節目を迎えました。

本学科は、開設以来10年間「地域に密着し、地域に貢献できる人材の育成」という本学の理念の下で、社会の変化に対応した教育課程の内容変更や、教育水準の質的向上に努めてきました。

この10年間の本学科における特色ある教育の取り組みについて、具体的な事項とその教育的な狙いや背景、および成果を以下に示します。

1. 学科開設時の教育課程は、商経学科と同一教育課程としましたが、高度に情報化したビジネス社会に有用な人材の育成や、学生の進路選択の多様化に対応するために、以下のような改正を行い、平成12年度から新教育課程の運用を開始しました。

(1) 情報関連科目の新設・統廃合や、秘書学科をビジネス実務科目として再編・拡充し、学生が自分の目標に合わせて科目選択できるように、専門科目を経営関連科目、会計関連科目、情報関連科目、ビジネス関連科目の4つの科目群に再編しました。

(2) 学生の資格志向に対応して、全国大学実務教育協会の4資格（ビジネス実務士、情報処理士、上級ビジネス実務士、上級情報処理士）を取得できる制度に改めました。

2. 平成13年度入学生からは、「図書館司書」資格取得のために図書館学課程を開設し、県内唯一の「図書館司書」養成校として認可され、現在に至っています。

3. ビジネス社会で有用なICT (Information and Communication Technology) 能力の向上を目的に、県内の他高等教育機関に先駆け平成15年度より学生のノートパソコンの必携化を行いました。これにより、日常的にITリテラシーの向

上をめざすと共に、情報関連科目ではもちろんのこと、その他の科目についても、本学の情報ネットワークを利用した学生と教員の双方向性の授業を可能としました。その結果、多くの科目における課題やレポート作成に各自のノートパソコンを活用し、さらには自宅でも学校と同一の環境で課題作成ができるようになりました。

4. インターネット利用の急速な拡大とICT社会の進展に対応するため、平成17年度入学生より、以下に示す大幅な教育課程の改正を実施しました。
 - (1) 情報関連科目は、多様化する情報の専門的知識や技能習得のため、専門科目中の割合を36%から49%へ大幅に増やしました。また、幅広い知識や視野を育成するために、教養科目や外国語科目の充実も図りました。
 - (2) あらゆる分野でのウェブサイトの利用拡大を背景に、ウェブクリエーターの育成を目的として、全国大学実務教育協会のウェブデザイン実務士資格を取得できる科目を新規に作成しました。
 - (3) 早期化する就職活動で、本学科で取得できる資格を有効に活用するため、ビジネス実務士と情報処理士の両資格を1年終了時に取得ができるように開講時期の変更などをしました。
5. 平成16年度よりインターンシップ制度を単位化し、1年生の夏季休業期間中に企業や団体等で1～2週間程度の就業体験を行っています。また、就業体験終了後は学内で「インターンシップ体験発表会」を実施し、事前に選抜された学生が就業体験の状況と修得した知識や知見を発表し、1年生全員でそれらを共有すると共に、プレゼンテーション能力向上を図っています。なお、ここで優れた発表を行った2名の学生は、日本ビジネス実務学会の中部地区学生プレゼンテーション大会に出場し、平成21年度はそれぞれ最優秀賞と優秀賞を獲得しました。
6. 幅広い進路の選択肢がある中で、自分の将来目標を明確にし、その実現のために必要な能力や進路を見極めるために、平成18年度より1年次

の5月から学生全員を対象にキャリア支援教育を実施しています。これらの成果や、上記のインターンシップなどの実践的活動に重点をおいた教育指導により、卒業時の就職決定率はここ数年95%以上を確保しています。

7. 全国大学実務協会の資格取得者数は、全国の大学と短大の約250加盟校中、平成18年度から3年間は全国第3位、第7位、第5位と上位の実績を挙げています。この数年の実績は、同協会からも注目され、平成21年3月に発行された「大学の挑戦（第6巻）」にも優れた事例として紹介されました。

以上のように、様々な角度から学生の資質向上のための改善を実施してきました。

本学科の入学定員は、開設当初は臨時定員として120名から出発し、翌年度から平成16年度までの5年間をかけて90名まで段階的に減らしました。その後、経済のグローバル化とICT化を背景に、高まる情報・経営関係の進学ニーズに応えるため、平成21年度から定員100名に変更しました。また、本学科の卒業生は、平成21年度末で1,151名に達しました。

さて、開設10周年を迎えることを記念して、平成21年10月27日に、「ICT時代の人材育成とキー・コンピテンシー」をテーマに、「富山短期大学経営情報学科開設10周年記念セミナー」を富山市民プラザで開催しました。本セミナーの開催目的は以下の2点です。

初めに、地域の皆様から本学科の位置付けと存在意義の認識をして頂くこと。次に、今後本学科が地域社会に一層貢献できる存在であり続けるための参考情報や提言を頂戴することです。

セミナーは、特別講演、基調講演、パネルディスカッションの3部構成で、本学教職員、本学科学生、そして一般市民の方々も含め約250名もの参加がありました。

特別講演では、株式会社インテックの金岡克己社長を講師として、「ICT時代の人材育成」というテーマでICT業界及び企業の中でのIT活用の現状について、講演して頂きました。また、基調講演では、富山大学人間発達科学部の山西潤一教授から、ICT時代を

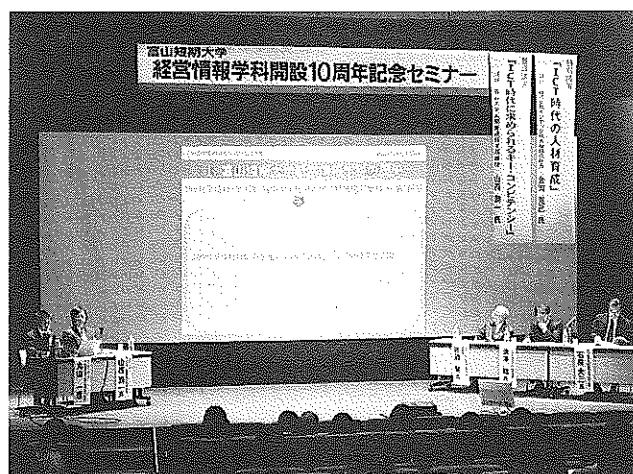
生き抜くために必要な基礎教育や基盤能力の開発について、「ICT時代に求められるキー・コンピテンシー」というテーマで講演して頂きました。

第3部では「人材育成と短期大学教育について」というテーマでパネルディスカッションを行いました。そこでは、社団法人富山県経営者協会の佐藤登専務理事から、富山県全般の企業経営を俯瞰される立場で、またコーチ株式会社の清澤聰総務部長からは県内の主要企業、並びに本学科の卒業生を採用した企業の立場で、そして富山県立高岡商業高等学校の石原大三校長からは、本学科へ卒業生を送り出される立場で、それぞれから人材育成に関して短期大学教育はどのようにあるべきか等の貴重なご意見を頂戴しました。

上記講演やパネルディスカッションを通じ、本セミナーから当初の目的に十分叶う成果が得られ、そこでの助言や提言は本学科の将来の発展に誠に有意義なものでした。

最後に、現在日本は厳しい経済・社会環境の真っ只中に置かれていますが、本学科がこの10年間に積上げてきた教育実績や各種学生指導などを基盤に、地域社会により必要とされる教育機関となり、将来に渡って発展し続けることが社会的使命だと確信しています。

そのため、学科の教職員一丸となって努力して参りますので、関係各位の皆様におかれましては、経営情報学科に対し、今後益々のご支援・ご指導を心からお願い申し上げます。



《経営情報学科開設10周年記念セミナー風景》

「世界は今」報告会を実施

JR 富山駅前にある CiC ビル 3 階に、富山国際学園サテライト・オフィス「地域交流センター」が平成 21 年 4 月に開設され、富山国際大学、富山短期大学、富山国際大学付属高校、富山短期大学付属みどり野幼稚園のさまざまな行事、催し物、PR イベントを行っています。こうした中で、海外出張に行った教員や海外留学で外国生活を味わった学生・生徒の研修成果・体験を少しでも多くの人に伝え、テレビや新聞ではわからない最新情報を提供してもらうために「世界は今」と題した報告会を実施し、参加した一般市民、学生・生徒、学園関係者から高い関心を集めています。

第 1 回目の報告会は、7 月 7 日に、富山国際大学の提携校である大連半島外国语学校、大連水産学院など北京、天津、大連三都市を訪問した田中忠治富山国際大学学長が、「中国訪問 5 泊 6 日」と題して、最新の中国事情を報告しました。特に中国の学生たちがなぜ日本留学をめざすのかについて、日本の教育への信頼、日本の大学卒業後の就職での有利な状況などについて説明がありました。

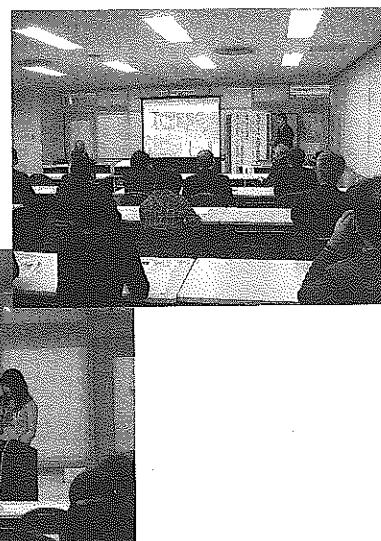
第 2 回目は、10 月 27 日に、富山国際大学国際交流センター長鈴木康雄教授（平成 22 年 3 月末退職）の「南フランス農村の豊かな生活」についての報告でした。村人とともに、日本人の夫がスウェーデン人の夫人と快適な生活を過ごしている様子が報告されました。フォアグラの名産地のこの村に、近く世界初の「フォアグラ博物館」ができます。

第 3 回目は、12 月 16 日に、富山国際大学子ども育成学部の上坂博亨教授による「スイスで見た 100% 電気自動車の観光リゾート」についての報告会が行われました。21 世紀のエコビジネスの先端をゆく内容で、参加者は熱心に

耳を傾けていました。この時には、TV 朝日で紹介された富山市土（旧大沢野町土）の小規模水力発電のビデオも映し出され、富山国際大学の名が全国ネットに流れたことも紹介しました。

第 4 回目は、平成 22 年 3 月 1 日に、富山国際大学 3 年生折戸茉莉さんと同 2 年生小室隆史君による留学生活の報告でした。二人とも、現地のホストファミリーの一員として現地生活を体験し、同時にアジアやヨーロッパ、さらには中東からきた若者たちと友人になる貴重な体験を報告し、学生時代の留学が大きな成果をもたらすことを示しました。

「世界は今」は、今後も引き続き開催予定であり、学園関係者による知的交流の場となります。



子ども育成学部開設記念フォーラムを開催

平成 21 年 9 月 26 日（土）、子ども育成学部開設記念フォーラム「—明日の地域を拓く子ども育成—」を開催し、150 名の参加がありました。

第 1 部では、トークセッションとして、谷内早苗先生（県保育士会前会長）、上田雅裕先生（県私立幼稚園協会会長）、田畠章先生（県小学校教育研究会社会科部長）、品川洋介

先生（県社会福祉士会会長）に、宮田伸朗子ども育成学部長を加え、「子ども育成学部への期待と課題」と題して意見交換しました。各先生からは、「保育の質の向上のためにも、子ども育成学部で優秀な人材を育成してほしい。」「現場の厳しさとやりがいを伝えてほしい。」「信念と情熱をもって子どもと接してほしい。」「学生時代に様々な人と出会い、人間性を高めてほしい。」といった声が寄せられました。

第 2 部の記念講演では、大橋謙策先生（日本社会事業大学学長）に「明日の地域を拓く子ども育成」と題してお話をいただきました。子どもの発達における「形成」機能と「教育」機能について、また、教育が成立する土台となる部分の大切さについてのお話があり、とても有意義な時間となりました。さらに、教育と福祉の統合をめざしてほしいと熱いエールをいただきました。

参加者の皆さんからは、新しい「子ども育成学部」を創っていくとする意欲がみなぎるフォーラムであったとの感想をいただきました。



「建学の精神」を高く掲げて富山国際学園の飛躍を 富山国際学園学事顧問 中島恭一

少子化をはじめ日本の教育環境が激変する状況のもとで、私学は激しい競争と淘汰に直面し、社会の厳しい評価にさらされている。こうした中で、富山国際学園が地域における知の拠点、人材育成の拠点としての存在感を發揮し、社会の強い信頼を得ることができると、まさに、正念場を迎えている。

そのためには、先ず私学が私学らしさを発揮することが大切であろう。私学の拠り立つ「建学の精神」や「基本理念」を明確に掲げ、それを出発点にその理念を教育に貫くことにより、個性的で存在感のある教育を展開し、社会全体、とりわけ地域社会から高い評価を受ける必要がある。慶應義塾や早稲田大学は言うに及ばず、発展している私学の多くは創立時の理念を伝統として守り、教育の根幹に据えている。その点で、富山国際学園の現状は十分であるとは言い難いのではないか。

富山国際学園の前身である学校法人富山女子短期大学は、1963年（昭和38年）に県内初の私学として開学し、「高い知性と広い教養、健全にして豊かな個性を備えた人材（当初は女性）の育成」を建学の理念として歴史を歩み始めた。今日では、富山国際学園は富山国際大学、富山短期大学、富山国際大学付属高校、富山短期大学付属みどり野幼稚園の4つの教育機関から成り、幼児期から青年期までの地域の教育・保育を担う富山県内唯一の私立総合学園として、地域とともに歩み、地域にとってなくてはならない存在となっている。

学園の「建学の精神」として、「高い知性と広い教養、健全にして豊かな個性」を掲げ、富山女子短期大学以来の伝統を保持している。まず、このことを学園全体として改めて確認する必要がある。何故なら、この「建学の精神」が広く学園内外に知られ、富山国際学園の教育を貫く理念として認知されていると言い難いからである。

それでは、この「建学の精神」はどのような意義をもつのであろうか。

「知性」は知覚を認識に高める頭脳の働きや物事を考え、理解し、判断する能力を表し、「高い知性」は人間と他の動物とを区別する最も重要な属性である。「教養」は人間が持つべき知識・常識や自然や文化への幅広い造詣を表し、「広い教養」は社会で活躍するための知的基盤となる。「個性」は他の人とは違う、その個人にしかない性格・性質を表し、「健全で豊かな個性」は個人の社会的存立・自立を支える。その意味で、「高い知性」「広い教養」「健全で豊かな個性」は、人間が人間らしさを発揮し、社会の中で生きていいくために備えるべき最も重要な属性であり、富山国際学園が求め、まためざしている人格形成のあり方を表している。

このように、めざす人間のあり方を真正面から掲げ、人材育成の根底に据えているところに、富山国際学園の「建学の精神」の真髄と意義があると考える。問題はこのような立派な理念を掲げても、実際の教育の中にその精神が貫かれておらなければ空念仏に終わってしまう。この点にこそ、学園の解決すべき課題、学園が浮揚する重要な鍵の一つがあるのではないか。

学園内の各教育機関が、独自の目的と専門性に応じた教育を行うのは当然であろう。しかし、同時に、学園全体の「建学の精神」に基づき、学生や生徒に対しそれぞれの発達段階に応じて、自らの「知性」を磨き、「教養」を広め、「個性」を開花させる努力を促し、それをサポートすることを教育の根底に据える必要がある。

このように富山国際学園の教育機関が一体性をもって、「建学の精神」を高く掲げ、これを教育の中に貫くことにより、飛躍を図ることを訴えたい。

平成22年度入試状況

大學

（平成22年4月6日現在）単位：人

| 学部 | 募集人員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 |
|-------|------|-----|-----|-----|-----|
| 現代社会 | 120 | 207 | 204 | 181 | 136 |
| 子ども育成 | 80 | 146 | 146 | 114 | 76 |
| 合計 | 200 | 353 | 350 | 295 | 212 |

短大

（平成22年4月6日現在）単位：人

| 学科 | 募集人員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 |
|--------|------|-----|-----|-----|-----|
| 食物栄養 | 80 | 140 | 140 | 104 | 91 |
| 幼児教育 | 80 | 135 | 135 | 118 | 93 |
| 経営情報 | 100 | 143 | 143 | 140 | 119 |
| 福祉 | 70 | 68 | 67 | 69 | 63 |
| 食物栄養専攻 | 15 | 9 | 9 | 9 | 8 |
| 合計 | 345 | 495 | 494 | 440 | 374 |

※福祉学科の合格者数には、第二志望合格者を含む。

高校

（平成22年4月8日現在）単位：人

| コース・クラス | 募集人員 | 出願者 | 受験者 | 入学者 |
|-----------|------|------|------|-----|
| 国際英語コース | 1クラス | 143 | 141 | 27 |
| 特進コース | 1クラス | 383 | 383 | 24 |
| フロンティアコース | 5クラス | 607 | 604 | 190 |
| 合計 | 7クラス | 1133 | 1128 | 241 |

平成21年度進路状況

（平成22年5月1日現在）単位：人

| 学部 | 卒業生 | 就職希望者 | 就職決定者 | 決定率(%) | 進学者 |
|------|-----|-------|-------|--------|-----|
| 国際教養 | 53 | 45 | 42 | 93.3 | 3 |
| 地域 | 88 | 77 | 71 | 92.2 | 5 |
| 合計 | 141 | 122 | 113 | 92.6 | 8 |

（平成22年3月31日現在）単位：人

| 学科 | 卒業生 | 就職希望者 | 就職決定者 | 決定率(%) | 進学者 |
|--------|-----|-------|-------|--------|-----|
| 食物栄養 | 83 | 75 | 75 | 100.0 | 3 |
| 幼児教育 | 93 | 88 | 88 | 100.0 | 2 |
| 経営情報 | 92 | 85 | 81 | 95.3 | 5 |
| 福祉 | 54 | 50 | 50 | 100.0 | 2 |
| 合計 | 322 | 298 | 294 | 98.7 | 12 |
| 食物栄養専攻 | 13 | 13 | 13 | 100.0 | 0 |

平成22年度新入園児童

幼稚園

（平成22年4月1日現在）単位：人

| | 新入園児 | 在園児 | 計 | 男 | 女 |
|-----|------|-----|----|----|----|
| 3歳児 | 24 | — | 24 | 10 | 14 |
| 4歳児 | 2 | 24 | 26 | 17 | 9 |
| 5歳児 | 1 | 26 | 26 | 15 | 12 |
| 計 | 27 | 50 | 77 | 42 | 35 |

平成21年度卒園児童

（平成22年3月31日現在）単位：人

| | 男 | 女 | 計 |
|-----|----|----|----|
| 5歳児 | 21 | 15 | 36 |

平成22年度 予算概要

■高校校舎改築工事、大学バリアフリー工事、短大校舎改築計画調査費の予算化等

平成22年度予算は、去る3月26日に開催された評議員会・理事会において承認されました。

今年度予算の大きな特徴は、最大の投資としては、高校における老朽化した校舎の改築工事に係る予算化が挙げられます。

また、大学においては、東黒牧キャンパスの施設のバリアフリー工事費、短大においては、老朽化した校舎の改築計画の調査費の予算化が挙げられます。

なお、大学の改組再編計画については、文部科学省の「未来経営戦略推進経費」の特別補助の対象事業に採択され、特別補助金が交付されることとなりました。平成25年度から消費収入超過（黒

字）体質への転換をめざします。

主な予算の概要は、次のとおりです。

消費収支予算において、消費収入の部では帰属収入合計が2,365百万円（対前年度当初予算比57百万円増・2.5%増）となり、これから基本金組入額を差し引いた消費収入合計が2,040百万円（同163百万円減・7.4%減）となっています。消費支出の部では、消費支出合計が2,792百万円（同11百万円増・0.4%増）となっています。この結果、消費支出超過額（いわゆる赤字額）は、752百万円（同174百万円増）となり、前年度繰越消費支出超過額2,257百万円に、平成22年度の赤字額751百万円を加えた3,008百万円が翌年度繰越消費支出超過額（累積赤字）となっています。

私学の置かれている環境は、少子高齢化時代・大学全入時代を迎へ、今までにない厳しい環境下に置かれています。その中にあって、本学園（特

資金収支予算書

平成22年4月1日から
平成23年3月31日まで

(単位:千円)

| | 平成22年度予算額 | 平成21年度当初予算額 | 差 異 |
|--------|------------|-------------|-----------|
| 収入の部 | 学生生徒等納付金収入 | 1,674,889 | 1,653,843 |
| | 手数料収入 | 33,725 | 33,358 |
| | 寄付金収入 | 2,005 | 1,506 |
| | 補助金収入 | 533,293 | 468,738 |
| | 資産運用収入 | 34,020 | 33,570 |
| | 資産売却収入 | 1 | 1 |
| | 事業収入 | 45,045 | 27,179 |
| | 雑収入 | 42,050 | 89,334 |
| | 借入金等収入 | 3,724 | 3,724 |
| | 前受金収入 | 463,452 | 459,041 |
| | その他の収入 | 1,098,266 | 383,542 |
| | 資金収入調整勘定 | -484,041 | -449,787 |
| | 前年度繰越支払資金 | 749,000 | 1,283,000 |
| 収入の部合計 | | 4,195,429 | 3,987,049 |
| 支出の部 | 人件費支出 | 1,666,348 | 1,777,786 |
| | 教育研究経費支出 | 534,298 | 534,733 |
| | 管理経費支出 | 167,311 | 142,069 |
| | 借入金等利息支出 | 4,429 | 5,744 |
| | 借入金等返済支出 | 30,430 | 30,300 |
| | 施設関係支出 | 876,119 | 7,200 |
| | 設備関係支出 | 35,977 | 57,952 |
| | 資産運用支出 | 106,293 | 93,963 |
| | その他の支出 | 96,224 | 663,802 |
| | 【予備費】 | 15,500 | 15,500 |
| | 資金支出調整勘定 | -438,500 | -91,000 |
| | 次年度繰越支払資金 | 1,101,000 | 749,000 |
| 支出の部合計 | | 4,195,429 | 3,987,049 |

消費収支予算書

平成22年4月1日から
平成23年3月31日まで

(単位:千円)

| | 平成22年度予算額 | 平成21年度当初予算額 | 差 異 |
|--------------|--------------|-------------|------------|
| 消費収入の部 | 学生生徒等納付金 | 1,674,889 | 1,653,843 |
| | 手数料 | 33,725 | 33,358 |
| | 寄付金 | 2,708 | 2,009 |
| | 補助金 | 533,293 | 468,738 |
| | 資産運用収入 | 34,020 | 33,570 |
| | 資産売却差額 | 1 | 1 |
| | 事業収入 | 45,045 | 27,179 |
| | 雑収入 | 42,050 | 89,334 |
| | 帰属収入合計 | 2,365,731 | 2,308,032 |
| | 基本金組入額 | -325,257 | -104,422 |
| | 消費収入の部合計 | 2,040,474 | 2,203,610 |
| | 消費支出の部 | -163,136 | -163,136 |
| | 人件費 | 1,679,348 | 1,795,786 |
| 消費支出の部 | 教育研究経費 | 809,798 | 816,333 |
| | 管理経費 | 169,471 | 144,559 |
| | 借入金等利息 | 4,429 | 5,744 |
| | 資産処分差額 | 113,500 | 2,700 |
| | 【予備費】 | 15,500 | 15,500 |
| | 消費支出の部合計 | 2,792,046 | 2,780,622 |
| | 当年度消費支出超過額 | -751,572 | -577,012 |
| | 前年度繰越消費支出超過額 | -2,256,838 | -1,868,188 |
| 翌年度繰越消費支出超過額 | | -3,008,410 | -2,435,200 |
| 翌年度繰越消費支出超過額 | | -573,210 | -573,210 |

に大学及び高校)は、慢性的な定員割れ状態から脱却し、消費収支の均衡をめざすためには、学生生徒の安定的な定員確保が絶対条件であり、今後の更なる努力が必要不可欠となっています。

また、各種補助金や各種競争的資金については、傾斜配分されるようになっており、これらの補助金や外部資金の獲得に向けて積極的に努力する必要があります。

資金収支予算において、平成22年度予算を資金の流れでみると、収入額は平成22年度入学生の前受金や平成21年度末の未収入金の見込額、平成20年度からの繰越見込額を加えると、収入合計は4,195百万円(同208百万円増・5.2%増)となっています。

一方、支出額は、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出、借入金等利息支出、借入金等返済支出、施設・設備関係支出等に、翌年度への繰越支払資金を加えて4,195百万円(同208百万円増・5.2%増)となる見込みです。

学校別消費収支予算をみると、全ての部門で赤字予算編成となっており、厳しさが顕著となっています。特に大学・高校においては、学生生徒数の定員割れが続いている。また、定員を確保している短大においても、老朽化した校舎の改築等の課題を抱えています。学生生

平成22年度部門別消費収支予算書

(単位:千円)

| 科目 | 部門 | 法人 | 大學 | 短大 | 高校 | 幼稚園 | 総額 |
|---------------------|---------------------------|--------|-----------|---------|----------|---------|------------|
| 消費 収入の部 | 学生生徒等納付金 | 0 | 639,891 | 718,142 | 296,148 | 20,708 | 1,674,889 |
| | 手数料 | 0 | 10,525 | 16,300 | 6,870 | 30 | 33,725 |
| | 寄付金 | 2 | 2,001 | 3 | 2 | 700 | 2,708 |
| | 補助金 | 0 | 165,616 | 135,848 | 216,829 | 15,000 | 533,293 |
| | 資産運用収入 | 30,020 | 1,100 | 2,700 | 200 | 0 | 34,020 |
| | 資産売却差額 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | 事業収入 | 0 | 15,070 | 2,656 | 22,000 | 5,319 | 45,045 |
| | 雑収入 | 500 | 8,213 | 11,350 | 21,987 | 0 | 42,050 |
| 帰属収入合計(A) | | 30,522 | 842,416 | 887,000 | 564,036 | 41,757 | 2,365,731 |
| 消費 支出の部 | 人件費 | 24,382 | 685,883 | 565,789 | 367,034 | 36,260 | 1,679,348 |
| | 教育研究経費 | 0 | 421,707 | 240,326 | 128,198 | 19,567 | 809,798 |
| | 管理経費 | 13,618 | 60,240 | 45,707 | 49,117 | 789 | 169,471 |
| | 借入金等利息 | 0 | 2,525 | 804 | 1,100 | 0 | 4,429 |
| | 資産処分差額 | 0 | 500 | 2,500 | 110,400 | 100 | 113,500 |
| | 予備費 | 2,000 | 5,000 | 5,000 | 3,000 | 500 | 15,500 |
| | 消費支出合計(B) | 40,000 | 1,175,855 | 860,126 | 658,849 | 57,216 | 2,792,046 |
| 基本 金組 入額 | 第1号基本金 | 150 | 52,875 | 14,490 | 207,286 | 446 | 275,247 |
| | 第2号基本金 | 0 | 0 | 50,000 | 0 | 0 | 50,000 |
| | 第3号基本金 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| | 第4号基本金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 基本金組入額合計(C) | 160 | 52,875 | 64,490 | 207,286 | 446 | 325,257 |
| | 当年度消費支出超過額(D)=(A)-(B)-(C) | △9,638 | △386,314 | △37,616 | △302,099 | △15,905 | △751,572 |
| | 前年度繰越消費支出超過額(E) | — | — | — | — | — | △2,256,838 |
| 翌年度繰越消費支出超過額(D)+(E) | | — | — | — | — | — | △3,008,410 |

徒の安定的確保や外部資金の獲得等により、いかに学園の財政基盤の健全性を確保するかが、今、学園の最重要課題となっています。

◆退職者一覧(平成22年3月31日付)

- 〈大学〉鈴木 康雄(現代社会学部教授・国際交流センター長)
安藤 満(現代社会学部教授)
- 亀子 正喜(現代社会学部教授)
- 〈短大〉船木よし美(経営情報学科教授)
松縄 規(経営情報学科教授)
- 丸山 一彦(経営情報学科教授)
- 吉田 紀子(福祉学科教授)
- 矢後 重俊(参事・就職支援センター長)
- 〈高校〉河田 悅子(副校長)
高田美穂子(教諭)
竹田 逸雄(教諭)
宮林 正和(教諭)
田中真紀子(主査)

◆新任者一覧(平成22年4月1日付)

- 〈大学〉原 稔(子ども育成学部教授)
堀江 英一(子ども育成学部准教授)
相山 馨(子ども育成学部講師)
- 〈短大〉山川賀世子(食物栄養学科講師)
柴田 怜(経営情報学科講師)
高木 尚紘(食物栄養学科助教)
大森 聰(食物栄養学科助手)
吉田 勉(参事・就職支援センター長)
大坪 瞳(食物栄養学科主事兼実習助手)
- 〈高校〉渡邊 昇(教諭)
岡部 二郎(教諭)
井城 斎加(教諭)
佐伯 華奈(講師)
小嵐 元気(講師)

富山国際大学
大学の経営改善計画について

大学では、学園の財政基盤の安定化を図るべく、平成21年7月、日本私立学校振興・共済事業団の私立大学等経常費補助金特別補助対象事業「未来経営戦略推進経費」（経営改善計画）に申請を行いました。新規申請件数61件あり、大学関係で採択されたのは10件で、その中でも上位で採択されたとの連絡を受けました。

この経営改善計画の主な内容は、今後5カ年を中期改善目標期間と定め、大学の「学生定員の確保」「人件費の削減」「外部資金の導入」の3本柱で財政の安定化を図ろうとするものです。

審査委員からは、「地域貢献に重点を置くなど従来の歩み・施策がよく、教育目標の転換も図り、具体的改善点も列記しているが、改善の実行が鍵で、真に人件費の抑制が求められる」などの評価をいただきました。

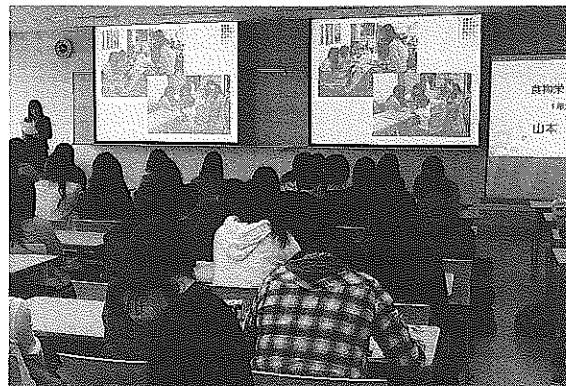
今後、大学再生のために、審査委員の評価を踏まえながら、計画を着実に実行していきます。

富山短期大学
各学科・専攻科代表がボランティア賞を初受賞

平成22年3月15日に『ボランティア活動実践報告会』がE館7階で開催され、およそ300名の1年生と20名の教職員が参加しました。この報告会は学生ボランティアを推進するため、各学科・専攻科において今年度のボランティア活動で最も活躍した学生の活動や学びを公表・表彰するもので、平成21年度初めて企画された行事です。

当日は、素晴らしい発表内容に加え、VCコーディネーターの関好博准教授から発表学生の学びに対する講義もあり、多くの学生・教職員から好評を得ました。

なお2年生は、体育館で卒業式の予行演習及び学長賞授与後に各学科・専攻科の代表にボランティア賞が授与されました。


富山国際大学付属高等学校
姉妹校が増えました!!

平成18年から交流が始まったニュージーランド・オークランド市にあるパクランガカレッジと、正式に姉妹校になりました。これまで姉妹校は、同じくニュージーランド・オークランド市にあるセルウインカレッジ1校でしたが、これで2校目の姉妹校ができました。平成22年3月18日の調印式には、本校中田校長をはじめ、橋本教諭、生徒11名が参加しました。本校訪問団は、ほぼ1週間滞在し、ホストファミリーとの涙の別れを終えて3月27日に無事帰国しました。4月には、さっそく、パクランガカレッジから、引率教員3名・生徒14名が来校し、新たな交流が始まりました。

富山短期大学付属みどり野幼稚園
お父さん達の手で、冬の「遊び大会」開催！

平成22年1月31日（日）に、みどり野幼稚園父親の会主催の「冬の遊び大会」が短大体育館で開催されました。寒い日でしたが、園児とその家族120名が集まり、体育館は熱気に包まれ、笑顔と笑い声でいっぱいになりました。

年少さんは、手つなぎ鬼ごっこ、年中さんは、しっぽ取り鬼ごっこ、年長さんはドッジボールを家族と一緒に楽しみました。鬼ごっこでは、お父さん達がゾンビになり奇抜なかっこで子どもたちを追いかけたりして会場は笑いに包まれました。また、当日は富山県より、県産材を使った積み木3千ピースを借りてきて、親子で積み上げて遊びました。

父親の会も4年目となり、お父さん達が園の行事にもたくさん参加し、積極的に子どもたちに関わっていただけるようになってきました。みどり野幼稚園の父親の会の活動がきっかけとなり、他の幼稚園や保育園でも父親の会ができるという広がりも見られます。子育てが大変な時代になる中で、子どもたちの成長にとって父親の役割がより一層必要であり、大切なことをあらためて感じています。

